

第4回消防力強化のための勉強会の概要

日 時:平成 29 年2月9日(木) 午後1時 25 分～3時5分

場 所:大阪府庁災害対策本部会議室

《主な意見(順不同)》

◆消防力強化に関する検討結果とりまとめ(素案)について

○ 素案の6ページ広域化の部分、今更ですが、5つの検討パターンにもう一つ検討パターンを追加願いたい。堺市以南の泉州 9 市 4 町全体を含む検討パターンを加えていただけないか。理由の一つは、1 本部体制の検討パターンが3つあるのに対して、ブロック別が 10 本部体制と 8 本部体制の2つしかないので、これを増やしたいということ。もう一つは、泉州地域全体の話として、泉州の臨海部には石油コンビナート等特別防災区域に指定されている堺泉北臨海地区とか関西国際空港地区、岬地区があり、防災上重要な施設等が存在する。また平成 25 年 9 月に、泉州地域 9 市 4 町で災害時相互応援協定が締結されており、津波等の災害発生時に応援し合う体制がある。以上のことから、泉州 9 市 4 町全体を広域化するパターンも検討に加えていただけないか提案します。

⇒府) この提案ですが、6 ページのパターンのうち、②と③の間に入るパターンを追加することですが、ご意見いただけますか。

○ 事前にお話伺っておりましたので、市長に確認してまいりました。市長は、「泉州南ができたばかりで新たにというのはどうなのか。頭から反対というものではないが、自市は単独でやっていくと言う話もさせて頂いているが、他のグループ案に意見をいうものではない。一つ懸念されるのは、市町村の理解を得ての提案なのか、泉州地域の他の市町村の意向が分からない中で、案としていいのか」とはおっしゃられていた。

⇒府) 難しいということか。

○ 広域化議論について、過去から自市は単独でグループに入っていないという基本的な考え方がある。その時点では、大阪府とも市町村ともかなり議論したはず。勉強会の中に、貝塚、泉大津、和泉などがいない中で、そうしていいのかというのはある。

⇒府) 勉強会の中で議論するというのはできないのか。

○ 議論がダメとは言えないが、大阪府としてどうなのかと。パターン①②に比べ、経過が異なる。これまでの相当な期間を議論して決めたパターン案①②なので、納得できるが、今回の提案は他と並列にして良いのかという懸念がある。

⇒府) 勉強会で全てを決めるわけではなく、いろいろ検討する場ではあるが、他のメンバーの意見も伺いたい。

○ 広域化の件、あくまで個人レベルの話だが、大阪には、政令市が2つあるのを一つにするのは無理があり、大和川で 2 つに分けるというのも一つの案。泉州に加え、柏羽藤あたりで分ける形も一

案ではないか。人口的、面積的な差はあるので、今更とは思いますが、一つの案として。

⇒府) ブロック分けの議論をしていくと、色んな意見が出るのは当然ですが、今からとなると一から議論となってどうか。当初言われた一元化だけ目指すのではなく、来年は委託費もつけて分析していく中で、多くのパターンの分析ではそれぞれが薄くなり、一応3つくらいに絞りたい。課題を探るためには絞込み作業がいるところ。新たなパターンに対応するのはしんどいので、それを踏まえてご意見を。

⇒府) 今年度作業した粗い試算にはまだまだ課題があり、精緻な検討をしたいが、全てはできないので、対象に入れるパターンはどれかという観点で。

○ 市長の思いは、今回粗い分析した後、続いて精緻な分析される前に、別のブロック分けのパターンがないのか出してもらえ、ということ。

○ もし、新たなパターンが案に入ったら、委託の費用は増えるのか。

⇒府) みなさんが案に入れるというなら入れて4パターンにするのか。精緻な分析の対象の数はまだはっきりしないので、どのように精緻な分析していくかは皆さんと議論していきたい。

○ パターン②は外せないか。現行計画案は、今できてないものを改めて試算する必要があるのかと思う。

⇒府) できなかった当時の課題と現時点の課題を精査して、棚卸しをしておくべきだろうと考えている。対象に入れさせてほしい。

○ パターンの表が一元化ありきに見える、新たなご意見もそこから出てくるのではないか。仮に2つに割った時、柏羽藤さんは広域化されているが、また別れる形のパターンは如何ですか。

○ そこは大きな仮定の枠の話なので調整できる。

⇒府) 現行の案と異なるブロック割の案がでていますが、その中で、どれを精緻にやっていこうというのは後で出てくるでしょうが。

○ 提案市の意向もわかる。ただ、これまでこの案をもとに議論してきたわけで、最終の会合で案をひっくり返して、改めて項目を増やすというのはどうか。泉州の南と北の関係はよく分からないが、皆さんが認められるのであれば、今のパターン②のところに、泉州北、南のところだけ議論があったことを付記することを持って、来年につなげることしか、時間の制約ある中でできないのではないか。

○ 市長は協力することはやぶさかでない。泉州北の意向があれば仮定の検討は、受けると言っていましたので、この案を入れても協力はするので、自市が反対したとはしない。

○ 幅を広げるくらいはかまわない。

○ 提案市さんは他の市町村には説明に回ったのですか。他の泉州地域の市も来ているので。

○ このメンバーだけ。

○ 今まで積み重ねた議論から言えば、付記することで来年につなげるしかないのかなと。

⇒府) 付記するという案はどうでしょうか。

○ 1月18日の首長会議にパターンを見せているが、内容をそこまで突っ込んだ話はしてない。

⇒府) 市長町村長会議では、パターンを示して、地図もつけて、こういうところまで検討していますと説明したところ。

○ 前回、他にパターンがあれば指摘欲しいとの話があった。今回、出てきた案については、28年度で追加するのは困難でも、29年度に対象とすることはできるのでは。

⇒府) 大体意見が出そろったと思うが、このような新たな提案の意見があったということを付記させていただくことで、とりまとめさせていただいてよろしいか。

○ メリット・デメリットを知りたいので、泉州案も上げて欲しい。

⇒府) 大きなパターンは現状のまま。泉州1ブロックも同様に扱うというのは、これまでの経過があり、今から同じレベルでというのは難しい。従来の案でも検討後、調整作業が必要になるだろう。

⇒府) この案が付記されることになっても、パターン分析を今から入れるのは難しい。みなさんが首長さんの意向踏まえて、本文に付記したうえで、年度末の5回目時点でもう一度、来年はどれを精緻にやるのか。そういう事もないとは言えない。みなさんが新案も候補の一つであることを認めるなら、5回目に議論をすることはありうる。5ブロック+大阪市で6本部体制。

○ 個人的な意見では大和川を境に2ブロックというのもありとは思う。

⇒府) 事務局からは、今まで議論した経過もあるので、議論の結果としては5パターンとして、ご意見があったということは、付記して、29年度の検討にどのパターンを使うか、ブロック体制について5回目のときに議論をしていきたい。進め方は次回、とりまとめは現在の形、付記は行う。

○ 基本的なことだが、ブロック分けの理屈考え方を明確にしてほしい。泉州が2つに分かれた理由とか、北摂の人間には見えない。今回パターン①では北摂を2つに分けている案だが、人口に差があるし、もう一つしっくりこない。なにかの結びつきなのか。

⇒府) 広域化推進計画を作った時にはパターン②の形が、地域特性とか地勢学的な話でこうなった。その後、勉強会を通じて、全体アンケートを取った時、ブロックは大きければ大きいほど良いとか、北摂などは大きすぎるので細分化すべきという意見もあったので、このように5パターンを用意した。

○ 現行計画も最初は4ブロックでしたよね。

⇒府) 平成20年当時の計画は、泉州ブロックと南河内ブロックはもともと一つ。その後、泉州は南の方ならまとまるという声が出てきたので、実態に合わせて、2つにした。その際、南河内でも実態

に即して、2 つに分けた。北部と東部がそのまま残っていたわけだが、今回大きすぎるというご意見もあったので、①のパターンで2 つに分ける案となった。

◆消防力強化に係る今後の検討について

○ 28 年度は予算的なものは無かったと思うが、29 年度はこの案を見るとかなり専門的な考察が多い、検討の成果品を作るのにコンサルを活用する予定なのか。

⇒府) コンサルを使って行いたい。査定案が公表されているが、1200 万ほど付いている。これでどれだけできるのか分からないが、できるだけ詳細に分析していきたい。

○ 参加者の市町村は情報提供的な協力で良いということか。

⇒府) 詳細な分析をする上では、資料の提供という形で各本部にもお手間をかけることになる。

○ 現状を数値化したうえで、広域化することでどう変わるのかという比較が大事だが、範囲がブロックなのか、市町村レベルなのか、本部ごとなのか、どのように考えられているのか。そのあたりが出て、あるべき費用が出て、それでやっと市町村側も比較できると思うが。

⇒府) 市町村が実際に広域化を決断する上では財政面への影響も大事。広域化で消防力がどうなって、それにはどの程度のコストが必要なのか、来年度の調査でどこまでお示しできるかは考えていきたい。例えば、署所の統廃合などは、具体的な話を出した途端に「認められない」という話になりかねないが、今回は仮定の話としてやらないといけないと思う。また、分析の過程では市町村毎の数字も出てくるかもしれないが、それをどこまでお見せするのは考えさせていただきたい。

⇒府) できるだけわかりやすく、首長をミスリードしないような情報の出し方を吟味していきたい。これに限らず、知恵をお借りして、一緒にやっていきたい。

⇒府) 以前に各ブロックで広域化を検討された際の資料も参考にしながら内容を検討しているが、分からない部分もあり、細かい考え方等はアドバイスを頂きたい。

○ 推進計画の初期から知っているが、やはり首長が首を縦にふらんと上手くいかない。

首長がGOサインだしたところだけが広域化してきた。府はもう少し首長に踏み込んだ話をさせていただきたいなど。

⇒府) そこは、まさに首長さんが判断する話であり、首長に説明していけるようにするための整理作業であると認識。

○ 難しい作業だと思う。消防本部間で消防力の違いがあり、広域化することで、逆に今まである程度充足していた消防力が分散される本部もあれば、充実する本部もあるだろうし、分析で「改善される部分」だけしか見えてこないようでは困る。首長に問われた際に、「今の消防力が分散される」ということになると、前回の広域化議論と同じになる。お金の話は別として、自市の消防力は低下しますよ、という話になると難しいと思う。

また、もう一つ気になったのは、第2ステップで「旧消防本部は署にする」とあるが、消防本部それぞれに現に指令センターも付いている中で、具体的にどこの本部が署になってしまうのかまで書

かれたらしんどいかなと思う。

○ 資料1の2頁で、「消火作業の主力となるポンプ自動車及び化学自動車の第一出動台数」とあり、資料編でも「第一出動で化学自動車が出動する本部が 5 本部ある」と記載されているが、化学自動車を普通の火事で出動させている本部があるのか。

⇒府) 普通の火災であっても放水機能に着目して出動させている本部があるとお聞きしている。

○ 資料1の5頁の真ん中で、「西日本の大規模災害時の中核を担える体制づくりなどを求める意見などが見られた」とあるが、これはアンケートでそういう意見があったのか。

⇒府) 資料編の 48 頁の下の方にそのような趣旨の意見が複数挙げられている。

○ 消防力の強化のために府が積極的に補助金を出すなど、府の関与を書きいただけなのか。大阪の消防力を上げるのなら、東京都と比べて足りない物は大阪府で買ってもらうとか。そういう話が全くなく、議論の前提が出来る範囲の中になっているのかも明らかでない。

○ 教えてほしいが、2頁の中段で、「大規模本部ほど放水開始時間が短く…」、「建物火災 1 件当たりの延焼床面積についても…」とあるが、そのような調査データになっているのか。

⇒府) 資料編の5頁と6頁のグラフがそれに相当するもの。本部間のバラつきはあるものの、資料編5頁の放水開始時間では、70 万人以上では 8 分以内が 62.4%、30～70 万人では 39.6%、10～30 万人では 25.8%と、大きな本部ほど早く放水が開始されている傾向が見られる。また、資料編6頁の建物火災 1 件あたりの延焼床面積についても、70 万人以上で 12 m²、30～70 万人で 23 m²、10～30 万人で 44 m²と、同様の傾向。これについても、年によって大きな工場火災などがあれば大きく上がるので、その意味で2か年分のデータでみたが、そのような傾向が見られたところ。

○ 管轄面積の大小や、市街地化されているか否か等によっても違うと思うが。

⇒府) 具体的に1つずつを見ていけば、そういう違いも分かると思うが、今回は、トータルのデータの中での平均値で見ている。

⇒府) また、これ以外にもご不明な点等あれば、事務局までお伝えください。よろしく申し上げます。

◆その他

○ 来年度の勉強会のメンバーはどうなるのか。

⇒府) 構成については、今後相談させていただく必要があるが、今の消防のメンバーは、消防長会の会長とも相談させていただき、こういう形になっている。地域代表というわけではないが、一定選ぶ際には理屈があるので、府下消防長会のブロック代表市の方をお願いしている。来年度には概ね交代となるので、やはり新たなブロック代表市をお願いに行きたいと思っている。危機管理部局については来年度も同じ市と聞いているので、引き続きお願いしたい。また、大消さん、堺市消防さん、島本消防さん、忠岡消防さんも、引き続きお願いしたい。また次回の会議までに調整させていただき、来年度の勉強会も引き続きご協力いただきたいと思います。